



2025年AOAセミナーの概要

セッション/時間	スピーカー	スピーチ概要
セッション1 (開会挨拶・基調講演Ⅰ)	11月13日(木) 10:00-10:50 <u>村山美彦</u> AOA会長(日本)	■開会挨拶（アバター動画上映後）
	<u>パク・ビョンヒ</u> NH生命保険社長(韓国)	■歓迎挨拶
	<u>リズ・グリーン</u> ICMIF CEO (英国)	■ICMIFからの挨拶（ビデオ）
	<u>メリーナ・モリソン</u> BCCM CEO(オーストラリア)	■基調講演Ⅰ：協同組合と相互扶助組織の目的と影響（オンライン）
セッション2 (利用者ニーズにこたえるために)	11月13日(木) 11:10-12:50 <u>ルチ・アガルワル</u> Vimo SEWA CEO(インド)	■連帯、希望、そしてレジリエンス（オンライン） インドのマイクロ保険セクターの現状と、インフォーマル経済における金融保護とリスク軽減に焦点を当て説明します。VimoSEWAが、小売事業向けの草の根保険推進者によるB2C（企業対顧客）およびB2B（企業間）の両方のマーケティングチャネル、ならびにMFI（マイクロファイナンス機関）を含むCSO（市民社会組織）とのパートナーシップを通じて、顧客のニーズにどのように応えているかを紹介しています。また、過去33年間にVimoSEWAが達成した重要なマイルストーン、およびVimoSEWAが相互組織および草の根コミュニティの仲介機関として提供する、カスタマイズされたさまざまな生命保険および損害保険商品がカバーする多様なリスクについても紹介しています。
	<u>ジャクリン・P・バレナ</u> 1CISP ルソン担当執行責任者兼戦略責任者 (フィリピン)	■会員体験の質を向上させる： 私たちは前例のない変化の時代に生きており、期待は絶えず進化しています。会員はもはや単なる顧客ではなく、協同組合の生命線です。会員が当組合で得る体験こそが、私たちの最も貴重な資産であり、ブランドであり、評判であり、将来の成長エンジンです。本プレゼンテーションでは、顧客中心主義、パーソナライゼーション、デジタル化を通じて会員体験を新たな高みへ引き上げるという、私たちの共通の使命について議論します。
	<u>国分聰人</u> コープ共済連 総合マネジメント本部 本部長 (日本)	■組合員の声がつくる保障～CO・OP共済の取り組みとこれから～ コープ共済の概要と、組合員の声を生かす取り組みをご紹介します。 コープ共済では年間約25万件の加入者からの声をいただき、商品やサービスの継続的な改善に活かしています。 設立当初から、組合員の声はCO・OP共済の原動力となり、保険商品の改定やサービス向上に深く影響を与えてきました。昨年リリースした「お誕生前申込」という新たなお申し込み制度をはじめ、DXやBCPの取り組みなど、組合員の声を元にした最新の商品開発と取り組みの事例共有を行います。
	<u>カン・ヒジョン</u> 企画担当 NH生命保険(韓国)	■AI時代における保険会社の対応戦略
ランチセッション	11月13日(木) <u>監物竜太</u> スイス再保険上級ソリューション担当マネージャー(日本)	■Cat Net® Suite 位置情報データを活用してリスク軽減戦略を進化させる
基調講演Ⅱ	11月13日(木) 13:50-14:50 <u>ニック・ミンゴ</u> スイス再保険 上級リスクコンサルタント (シンガポール)	■相互ナッジ：利用者のためのプロテクション/行動科学で脳の仕組みに沿った共済・保険を設計する 共済・保険は利用者目線で設計されているでしょうか？本基調講演では、行動科学と実社会での心理学を組み合わせ、利用者がライフステージに合った適切なプロテクションを選びやすくなる仕組みづくりを紹介します。

セッション3 (利用者のための組織であるために)	11月13日(木) 15:10-16:50	ドナ・ディソン CLIMBS副社長(フィリピン)	■利用者本位の組織づくり CLIMBSが、同組織が会員のために活動するという使命をどのように体現し続けているかを説明します。相互扶助、連帯、信頼という協同組合の原則に根ざした CLIMBS は、民主的なガバナンス、包括的な参加、教育、持続可能性をその成長に統合しており、協同組合の価値観は、その基盤であるだけでなく、信頼、回復力、共有の繁栄を育む上で最大のビジネス上の優位性でもあることを証明しています。
		高橋忠雄 こくみん共済 coop シニア・アドバイザー (日本)	■「新しい助け合い」を支える人材づくりとデジタル商品開発 現在、こくみん共済 coop では「新しくいたすけあい」の実現に向けて、人材育成とデジタル活用の両面から取り組みを進めています。「新しくいたすけあい」は、今まで取り組んできた「たすけあい」に時代に即したデジタル技術を掛け合わせ、進化させたもの。実現には、デジタル技術はもちろんのこと、人への投資が重要であるため、こくみん共済 coop では、「人財アカデミー」の設立を通じて、人への投資を後押しし、組合員のための組織であり続けることを目指しています。
		キム・ヨンイル NH損害保険 副社長(韓国)	■韓国農業のレジリエンスと未来 K-農業政策保険の概要、プログラムの事業成果、NH農協損害保険の中核的役割、そしてK-農業政策の将来ビジョン。
		野口剛志 ギャラガー リー ジャパン 会長(日本)	■パートナーシップのための企業文化の浸透 顧客サービス、従業員／同僚、コミュニティの観点から「ギャラガー・ウェイ」について解説し、組織に文化を浸透させる方法についても触れます。また、投資家が企業文化を財務的成功の原動力として評価している点にもれます。ギャラガーは上場企業であり、AOAメンバーが株主還元を重視していないことは承知していますが、ICMIFが取り組む『目的のための利益創出 (Profit for Purpose)』イニシアチブは、価値創造の概念が類似しているため、AOA会員にも共感いただけると思います。
セッション4 (利用者の輪を広げるために)	11月14日(金) 10:00-12:10	アヒラ・デヴィ DAHN CEO(インド)	■インドにおけるDHAN財団の取り組み事例 (ビデオ) 相互マイクロ保険を通じたコミュニティレジリエンス構築におけるDHAN財団の革新的なアプローチを紹介します。貧困層や脆弱なコミュニティが、コミュニティ所有のリスク管理システムを通じて、生活・健康・作物・家畜のリスクを管理する力をいかに獲得しているかを明らかにします。金融包摂、技術、地域リーダーシップを統合することで、DHANはインド農村部全体で生計を強化し貧困を削減する持続可能なモデルを実証しています。
		グラハム・クラーク アジア・アフィニティ CEO (香港)	■会員の輪を広げる取り組み
		エメテリア・F・キハノ ASKI MBA CEO(フィリピン)	■コミュニティに根ざしたマイクロ保険で包摂的成長を実現 ASKI MBAがコミュニティ、パートナーシップ、エンパワーメント、金融保護を通じて会員基盤を拡大してきた軌跡を明らかにします。ASKIが女性や若者、先住民族コミュニティを、組織のリーダーや会員として積極的に参画させる手法を紹介し、変革の実例に焦点を当てます。協働と革新を通じて、ASKI MBAはフィリピン人家庭の包摂的成長とレジリエンス構築を継続しています。
		インディカ・キリワンデニヤ Sanasa Life 前代表取締役(スリランカ)	■包摂と協働による協同組合のイノベーション サンサ生命保険株式会社が若者・女性・少数派の参画を通じて金融包摂を拡大する協同組合としての歩みを紹介します。特に「サンサ・イディリヤ」プログラムが社会的エンパワーメント、デジタル変革、環境責任の推進役として果たす役割を強調します。最後に、協同組合の価値観に基づくグローバルな連携と持続可能な地域成長に向けたサンサのビジョンを概説します。
		川越剛 JA共済連 再保険室長(日本)	■利用者の輪を広げるためのZenkyorenの新たな挑戦 JA共済連は、東日本大震災の経験を通じて、協同組合としての使命とさらなるリスク対応力の重要性を再認識しました。近年のグローバル化や気候変動をはじめとして我々を取り巻くリスクは複雑化しているなかで、現在、我々は協同組合だからこそ向き合うべき課題に直面しております。このような背景のもと、JA共済連の資本を活用しながら世界のICMIF団体等のリスク移転の支援に資する新たな仕組みづくりに挑戦しています。

